

## 第25回 日本時間生物学会に参加して

沖村 光祐<sup>✉</sup>

名古屋大学 大学院生命農学研究科 動物統合生理学研究室

私の学会参加記は前日譚から始めます。10月19日、私は名古屋から長崎に向かう飛行機に搭乗しました。最後列に着席し、ポスター発表について考えながら離陸を待っていたのですが、そこへお揃いのスーツを着た大勢の男性が搭乗してきました。初めは、ただ眺めていたのですが、その中に知った顔があり驚きました。なんと、サッカー元日本代表の大久保嘉人選手がいたのです。スーツ姿の彼らはJリーグのジュビロ磐田の選手団でした。機内全体が興奮しているように感じました。サッカーに詳しくない私でさえも大久保選手の登場には血圧が上昇しました。

長崎空港へ到着し、最後列に座っていた私は焦れる気持ちを抑えながら最後に飛行機を降り、急いでロビーに向かいました。ロビーでは、先に降りていた他の乗客達がジュビロ磐田の選手団を遠巻きに見ているところでした。これはチャンスだ！緊張しながらも私は大久保選手の元へ駆け寄り、一緒に写真を撮ってもらうことに成功しました。大会前日に起きた、この成功体験のお陰で、私の中のチャレンジ精神に燃料が満たされていきました。

さて、翌10月20日、120%燃料が補給されたチャレンジ精神をもち、大会当日を迎えました。長崎大学医学部坂本キャンパスで開催された本大会も魅力的な演題が多く、細胞、組織、個体、種そして集団・社会など様々なレベルに着目して取り組まれている先進の時間生物学研究に触れることができました。私の身の回りの多くに時間生物学の概念が浸透し、生物時計が重要な役割を果たしているのだと改めて実感しました。

周期的に変化する環境に対して巧妙に適応する生理現象に興味をもち、当研究室に所属して時間生物学研究を始めて以来、本学術大会へ毎年参加してきました。大会に参加されている学会員の方々とは面識が次第に増えていき、お話をさせていただく機会もあったのですが、シンポジウムや講演では緊張や恥ずかしさから質問できずにおり、悔しい思いをすることが多々あ

りました。ですが、今回は大久保選手から（勝手に）もらったチャレンジ精神が満ち満ちていました。かなり緊張しましたが、シンポジウム内で初めて質問することができました。ただ聞くだけでなく、自分が議論に参加することで理解を一層深めることができた満足しています。

また、堀田凱樹先生や本間研一先生の講演から時間生物学の黎明を担った研究を勉強させていただきました。時間生物学には、まだまだ私が知らないところが沢山あると痛感しました。しかし、一方で、やはり時間生物学は面白い、という思いを強く持つことができました。

ポスター演題では、自身が行っている、「哺乳類における眼の季節応答に関する研究」について発表しました。多くの方々からご意見、ご質問をいただき、その後の研究の参考になりました。さらに、幸運なことに、優秀ポスター賞に選んでいただきました。現時点の私にとっては身にあまる賞であります。しかし、今後研究を鋭意進め、必ずや本大会の優秀ポスター賞に見合う成果を報告したいと強く心に決めております。私のポスター発表に訪れていただいた方々、並びに平素より私の研究にアドバイスをいただいている方々に御礼申し上げます。

天候に恵まれ無事グラバー園で開催された懇親会では、美味しい食事やお酒を囲み、（借景でしたが）季節外れの綺麗な打ち上げ花火を見ながら同年代の学生と交流を深めることができました。中には、博士課程への進学を目指している学生も多くいることに気がつきました。今年から博士課程に進学して、普段周りに博士課程の学生が少なく心細くなっていた私にとっては励みになりました。今後は、彼らとともに時間生物学会を盛り上げていけたら…と妄想しています。

今回、本大会テーマ「From the Discovery to Innovations」とあるように、先人たちが築き上げてきた時間生物学の歴史の上に、幅広い時間生物学の展

✉ okimura.kousuke@c.mbox.nagoya-u.ac.jp

開があるのだという、当たり前なのに気づかされました。温故知新を意識し、時間生物学についてさらに勉強して知識を深めるとともに、「チャレンジ精神」に常に燃料を満たし、新しいことへ挑戦し研究をどんどん進めていきます。

余談ですが、名古屋へ向かう帰りの飛行機でもジュ

ピロ磐田の選手団と乗り合わせるようになりました。

最後となりましたが、このような素晴らしい学術大会を運営していただきました前村浩二大会長をはじめ関係者の皆様に、厚く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



優秀ポスター賞授賞式の様子（右から3人目が筆者）